

A2-11

AISol プロデュース事業の紹介

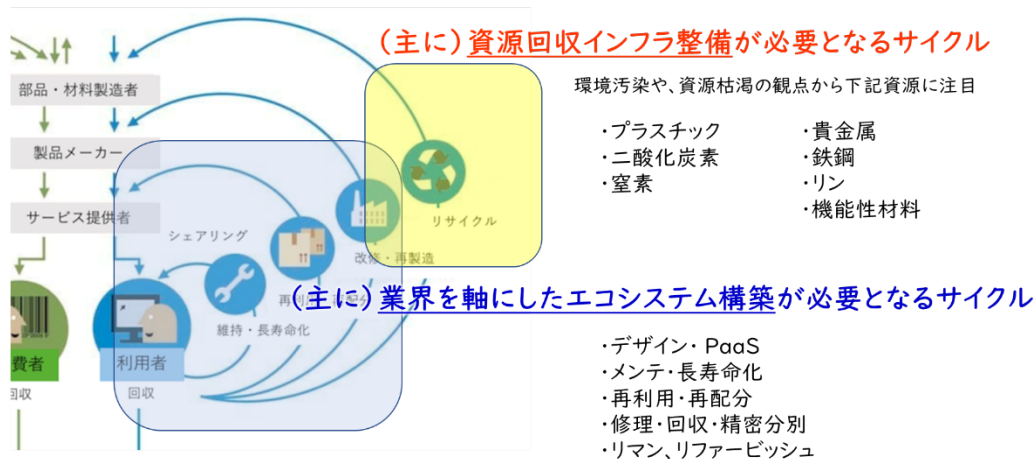
中林 亮 (AIST Solutions)

産業技術総合研究所（産総研）と一体となり科学技術とマーケティングを掛け合わせて「新たな社会価値創出と社会課題解決に貢献すること」を目指して設立された（株）AIST Solutions（AISol）が推進するプロデュース事業領域の1つに「サーキュラーエコノミー」領域がある。世の中でリニアエコノミー（LE）からサーキュラーエコノミー（CE）への移行が進行している中、産総研においても、多くの企業との連携においてCEは重要テーマとして検討課題となることが多い。CEは企業1社単独の課題ではなく、社会や業界、地域におけるエコシステム形成を意識した社会実装が肝要となる。本発表では、CEにおける産総研技術の社会実装を目指した産総研グループのCEプロデュース事業について紹介する。

図1¹⁾は、エレン・マッカーサー財団が示したサーキュラーエコノミーの全体像（通称「バタフライ・ダイアグラム」）の右半分の技術サイクルに資する技術を整理したものである。技術サイクルにおいて、内側のサイクルになればなるほど、製品の価値を保ち続けることができ、資源当たりの生産性を高めることができる原則に従い、技術サイクルを2つの領域に分類した。すなわち、一番外側のリサイクルのループを「資源回収インフラ整備」の領域、それより内側のループ（Value Retention Process (VRP) のループ）を「業界を軸にしたエコシステム構築」の領域とした。

本発表では、「資源回収インフラ整備」の領域においてボトルネックとなることが予測される資源回収インフラを産総研技術により整備することを想定し、その資源回収インフラを軸にエコシステムを構築する構想の一例を紹介する。

図1. エレン・マッカーサー財団のバタフライ ダイアグラムの技術サイクルを用いた「サーキュラーエコノミーに資する技術」の整理



1) <https://cehub.jp/learning/circular-economy-hub-learning-3/> から引用した図をもとに、発表者が独自に作成。

PROFILE

中林 亮 (株式会社 AIST Solutions プロデュース事業本部事業構想部・事業プロデューサー)

①1987年 神戸大学大学院理学研究科修士課程修了、2005年東京工業大学総合理工学研究科博士(理学)取得、1987年旭化成工業株式会社(現・旭化成株式会社)入社、2022年産業技術総合研究所入所、2023年株式会社AIST Solutions 出向・現在に至る②スペシャリティケミカルズ、高分子化学、光触媒化学、⑤日本化学繊維協会 技術委員会委員長(2021-2022)、JST さきがけ「反応制御」領域アドバイザー(2018-2023)